

ステロイド外用剤について

皮膚科

ス

ステロイド外用剤を使用することに、拒否反応を示す患者さんが時々いらっしゃいます。そこで今日は、そんな毎日の診療の中で生まれた例え話をしたいと思います。

みなさんは、初期の火災を発見したら、どうしますか？「水があれば水をかけます。水をかけても火が消えないとき、消火器があれば消火器を使用します。」などと答える方が多いと思います。「消火器の破裂が怖いので使用しません。そのまま火が広がって家が全焼して、自然に火が消えるのを待ちます。」という方はいないと思います。

上の文章で、「火災＝皮膚炎」「水＝保湿剤」「消火器＝ステロイド外用剤」「消火器の破裂＝ステロイド外用剤の副作用」と置き換えて、もう一度読み返してみてください。ステロイド外用剤の使用に拒否反応を示すことは、消火器の破裂というめったに起こらない事故を恐れて、消火器を使わないのと同じことなのです。

火災（皮膚炎）の状態によっては、弱い消火器（ステロイド外用剤）でただただ消火しても、焼け石に水となり、消火器（ステロイド外用剤）の使用量は増えていきます。強力な消火器（ステロイド外用剤）で一気に消火すれば、ボヤの状態で終わることができ、消火器（ステロイド外用剤）の使用量が少なく済む場合も多いのです。

再び火災（皮膚炎）が起きないように原因を探し、原因をなくすことができればいいのですが、原因が分からなかったり、原因が分かっても避けられないこともあります。そんなとき、火災報知器（皮膚炎が軽いうちに見逃さない）をつけたり、難燃剤（保湿剤）や耐燃性建材（皮膚に対する刺激が少ない衣服、安全なサンスクリーン剤による防御など）を使用して、火災（皮膚炎）が起こらないように気をつけていくことも大切だと思います。

2010.2

むとう みか

● 武藤 美香

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医



皮膚科・小児科
多摩ガーデンクリニック
東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

予約・お問い合わせ
042-357-3671

※皮膚科と小児科では診療時間及び受付時間が異なります。詳しくは受付・電話にてご確認ください。